

## 富士駐屯地への長射程ミサイル配備反対 米軍高機動ロケット砲射撃訓練反対

### 防衛省への申し入れ

党静岡県委員会、「米軍は来るなー出ていけー静岡県民の会」等

日本共産党静岡県委員会と「米軍は来るなー出ていけー静岡県民の会」は、3月25日、防衛省に対し、陸上自衛隊富士駐屯地への長射程ミサイル配備の撤回と、5月20日予定の米軍による「国道469号越え射撃訓練」の中止を求める申し入れを行いました。愛知県平和委員会からも要請書が提出されました。

御殿場平和委員会の渡邊希一氏、「富士にミサイルやめての会」の林克共同代表、県革新懇の山本清美氏、党静岡県委員会から鈴木節子県常任委員（県議候補）ら3名が参加しました。

山添拓参院議員、本村伸子前衆院議員が同席しました。

オンラインで高木理文御殿場市議、岡本和枝裾野市議、党静岡県東部地区委員



申し入れ書を手渡す鈴木節子前静岡県議、本村伸子前衆院議員、山添拓参院議員ら

会、愛知県平和委員会のメンバーが参加しました。

### 「ミサイル基地化しない」

#### 合意は生きている

防衛省は、1967年当時「東富士演習場またはその周辺をミサイル基地化しない」ことを静岡県と確認した文書は「現在も生きている」と認めました。

さらに、今回の東富士演習場内での訓練は、展開訓練など射撃を伴わず、移動式の装備品なので、「特定の場所の配備で運用するわけではなく、1967年の合意内容に反しない」としました。同時に、1985年の運用委員会関連文書に富士駐屯地の名前がないことを理由に、富士駐屯地は「周辺」に含まれないと強弁しました。

参加者から「85年の合意文書は議事録も残っていない。どういう経過か確認できるものはない」、「ミサイル基地化しないという合意を85年の中で無効化することは確認されているわけではない」との指摘に防衛省幹部は「その通り」と答えざるを得ませんでした。御殿場の高木市議は「東富士とその周辺をミサイル基地化しないという合意が生きている

るなら、富士学校でミサイルの研究開発をして、精鋭部隊を育てて日本に派遣していくことは合意に反している」と批判しました。

### 「今回限り」の約束を反故

また、防衛省は、国道469号越えの米軍高機動ロケット砲システム（HMARS）による訓練について、具体的な訓練回数を示せないとしつつ、年数回実施する意向を示しました。そして、射程距離の長い装備の訓練をできるのは、北海道の矢臼別と東富士の2ヶ所しかないと説明。「地元の見解を重く受け止めている」と言いながら、あくまで訓練の実施を迫る姿勢を変えませんでした。

昨年「今回限り」を条件に地元が訓練を受け入れたにもかかわらず、半年間で、「年数回の実施」と方針転換したことについて、参加者から「地元丁寧の説明という結論ありきでゆるされない」「地元は怒っている」など批判があがりました。

### ミサイル配備すれば

#### 攻撃対象になる

山添議員は、「緊張関係が増しているのは高市政権が原因」「ミサイルが抑止力になると言っても、標的になりうる。イラン攻撃ではミサイルの発射台が攻撃の対象になっており、弾薬があろうがなかるうが危険がある。撤回すべきだ」と指摘しました。

本村伸子前衆院議員は、「長射程ミサイルを配備してもミサイル基地ではない」と言い逃れているが、「では、『ミサイル基地』の定義は何か」と問い質しましたが、防衛省は何も答えられませんでした。

次回の東海ブロックいっせいで4月20日(月)です